



【国】ネクストハイスクール構想における改革先導拠点の創出

教育庁学校教育部
高校教育課



国の高等学校等教育改革促進事業に、本県から申請した4つの事業計画のすべてが採択されました。

類型	改革先導拠点	改革目標（育てたい人財像）
類型1	水戸農業高校	実践的な農業技術や課題解決能力を有した、地域農業をリードする人財の育成
類型1	水戸工業高校	AIや先端技術を活用し、将来の産業の変化に対応できる実践力を備えた、地域産業をリードする人財の育成
類型2	つくばサイエンス高校	普通科を改革の中核とし、科学技術科の専門性を生かして、理数系進路の裾野拡大と高度な理数系人材の育成
類型3	遠隔配信センター	遠隔で広がる可能性の中で、主体的に学び続ける人財を育成

（参考）国のグランドデザインで掲げられた3つの類型

＜類型1＞ アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

産業界や大学等と連携・協働した職業教育における人材育成機能の強化に向けた取組等のパイロットケース

＜類型2＞ 理数系人材育成支援

探究・文理横断・実践的な学びを重視し、大学等との連携・協働の強化等による理数系教育に重点を置いた学科等のパイロットケース

＜類型3＞ 多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

多様な学習ニーズに対応した教育機会を確保する取組等のパイロットケース



【国】ネクストハイスクール構想における改革先導拠点の創出

教育庁学校教育部
高校教育課

ネクストハイスクール構想の背景

『高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）2026.2月文部科学省』より抜粋

デジタル技術の目まぐるしい発展：2040年には生産年齢人口の減少・地方の過疎化等が一層深刻化

▶ **労働力需給ギャップ（事務職は余剰、労働生産性を高めるAI等の活用人材等は不足）が発生**

（参考）本県の2040年就業構造推計

『2040年の就業構造推計(改訂版)について（経産省 2026.3月）』より作成

茨城県	合計	専門職	AI等の活用人材（内数）	事務職	現場人材	生産工程従事者（内数）
需要数（A）	153万人	42万人	18万人	25万人	85万人	22万人
供給数（B）	135万人	34万人	7万人	30万人	69万人	14万人
ミスマッチ（B-A）	▲18万人	▲8万人	▲11万人	5万人	▲16万人	▲8万人

※専門職は「専門的・技術的職業従事者」、現場人材は「生産工程・建設・サービス職業従事者等」を集計

本県の方針性

第3次県総合計画（2026.3月策定）

- ・科学技術や産業の集積等を活用し、**将来を担う産業の創出**へ
- ・全国をリードし、**世界へ羽ばたく農林水産業**へ

県高等学校審議会答申（2026.1月）

- ・**産業界等とより一層連携した実践的な学び**が求められる。
- ・本県の教育環境を活かした**科学技術教育の推進**が求められる。
- ・**遠隔授業を推進**し、より一層の充実を図ることが望ましい。

産業界、大学等からの聴き取り（主な意見）

- ・**力を入れるべきは農業と工業分野**。農業県・ものづくり県の茨城として、県立高校の魅力は専門学科であり、強みなので、そこをしっかりと伸ばしてほしい。
- ・理数系人材の育成には、**小・中学校段階から理数系の面白さを体験する機会が重要**。拠点は、大学や研究施設に近く、最新の施設が整っていることが望ましい。
- ・過疎化が進む中、**オンラインを使った授業は必須**。学びの機会も広がる。

- **人口減少に伴う様々な課題を乗り越えるためには、今、高校教育改革に取り組むことが必要**
- **本事業を最大限活用して、本県の高校教育改革をけん引する4拠点を創出**



【国】ネクストハイスクール構想における改革先導拠点の創出

教育庁学校教育部
高校教育課

水戸農業高校

〔協力校〕

海洋（水産科）、大子清流、鉾田第二、坂東清風など
農業科設置校8校（総合学科等含む）

〔主な内容（予定）〕

- ▶ 農業法人等と連携した農業実践セミナーにより、実践技術や経営の視点を習得
- ▶ 省力化や衛生・防疫について一体的に学習できる実習施設（牛舎等）を整備
- ▶ 協力校と各農林水産業分野において、共同学習、現場実習、教員研修等を実施



水戸工業高校

〔協力校〕

IT未来（情報科）、日立工業、常陸大宮、総和工業など
工業科設置校13校（総合学科含む）

〔主な内容（予定）〕

- ▶ 企業・大学と連携した3年間の探究カリキュラムを導入し、課題の発見から解決までを段階的に学習
- ▶ 企業等と連携した学科横断の探究活動を実施できる実習棟を整備
- ▶ 他の専門学科設置校との「他分野横断型課題解決学習」を実施



つくばサイエンス高校

〔協力校〕

日立第一（理数・普通科）、太田第一、古河中等など
普通科設置校8校

〔主な内容（予定）〕

- ▶ 教科の学びと大学の学問・研究、企業の仕事・技術をつなぐ社会接続型の授業を展開
- ▶ 個別学習、協働探究、実験・分析、設計・試作、成果発表等を一体的に実施できる実習棟を整備
- ▶ 「県内横断STEAM発表会」を開催し、探究・発信の実践を県内各校へ普及



遠隔配信センター

（県教育研修センター内に設置）

〔協力校（受信校）〕

高萩清松、磯原郷英、三和など県内各地の県立高校25校

〔主な内容（予定）〕

- ▶ 数学・理科・情報などを、遠隔配信による授業として開設し、多様な学びの機会を提供
- ▶ 外部専門人材による配信、オンデマンド教材の充実により柔軟な学習支援体制を構築
- ▶ 教育研修センター内に、配信室・配信用機材を整備（受信用機材は協力校へ貸与）

- 今後、**産業界・大学・知事部局・教育庁等が、一丸となって改革先導拠点を支援する体制**を構築
- **拠点と協力校の連携による好事例等**を横展開し、**県内全域での教育水準の向上**を目指す



(参考) 本県におけるこれまでの高校教育改革

教育庁学校教育部
高校教育課

県立高等学校改革プラン 基本プラン (2020～2026)

- 【基本的な方向性】
- 「地域の中の学校」として、地域の人財を地域で育成
 - 新たな価値を創造する「起業家精神」を育成

実施プランⅠ期 (2020～2023)

県立高等学校の魅力づくりを推進

第1部 (2020～2022)

中高一貫教育校設置

- 10校
- ・併設型9校
 - ・中等教育学校1校

探究活動や国際教育、
科学教育等を重視

第2部 (2021～2023)

学科改編等

- つくばサイエンス
I T 未来
外国人生徒支援 [石下紫峰、結城一]
- 科学技術の進展やI T
人財の不足などに対応

実施プランⅡ期 (2024～2026)

学校の小規模化への対応
高等学校同士の共同の学び
を推進

- 機能統合 [明野、真壁]
閉課程 [太田一、定時制]
学校形態キャンパス制 [結城一、鬼怒窪]

茨城県高等学校審議会
(2026.1月答申)

～人口減少をはじめとする様々な社会の変化に対応した活力と魅力ある学校・学科の在り方について～

【これからの県立高等学校が果たすべき役割】

- 県のビジョンと一致した「地域の中の学校」として学校教育を充実
- これまで以上に地域や地元市町村、地域企業との連携を密にした教育活動の実践